

予報期間 12月25日から12月31日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 27日は、日本の東と東シナ海に高気圧が移動する。
- 28日から29日にかけて、高気圧が本州付近から日本の東に移動する。
- 29日から31日かけて、低気圧が日本海からオホーツク海に進む。
- 31日は、大陸の高気圧が西日本に張り出す。

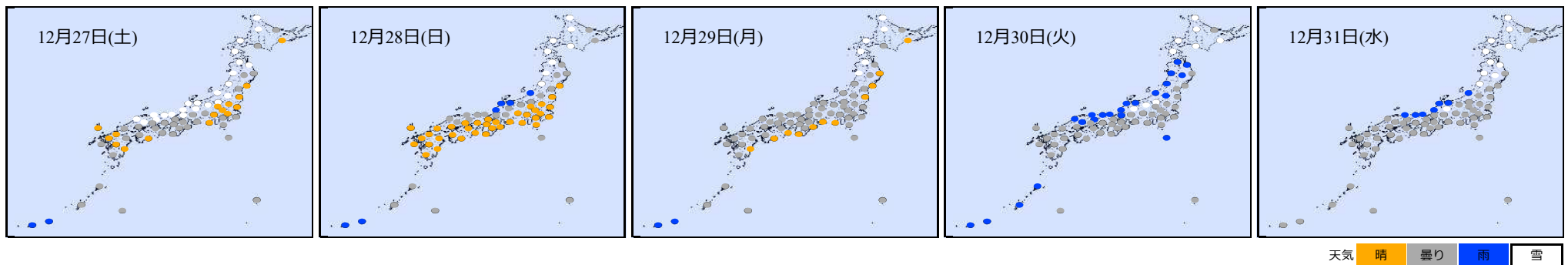
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 27日にかけては、日本付近は強い冬型の気圧配置となるため、北日本から西日本にかけて荒れた天気となる。東・西日本日本海側を中心に大しけとなる所があり、冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては、大荒れや警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

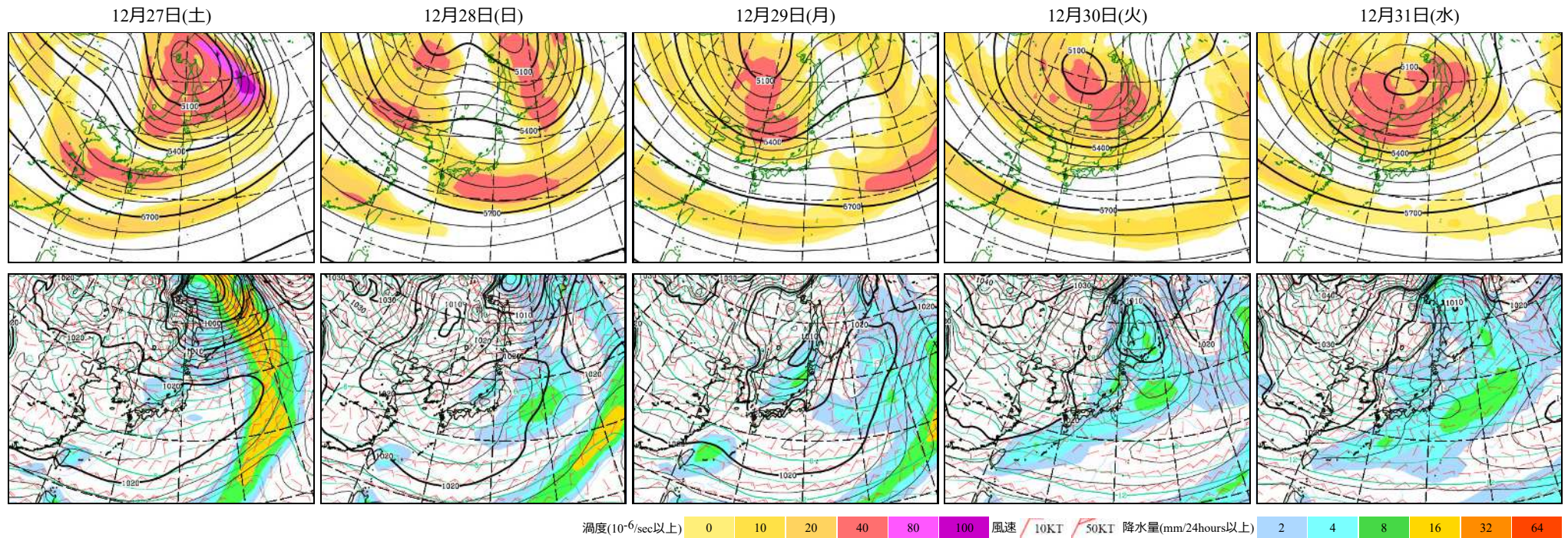
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

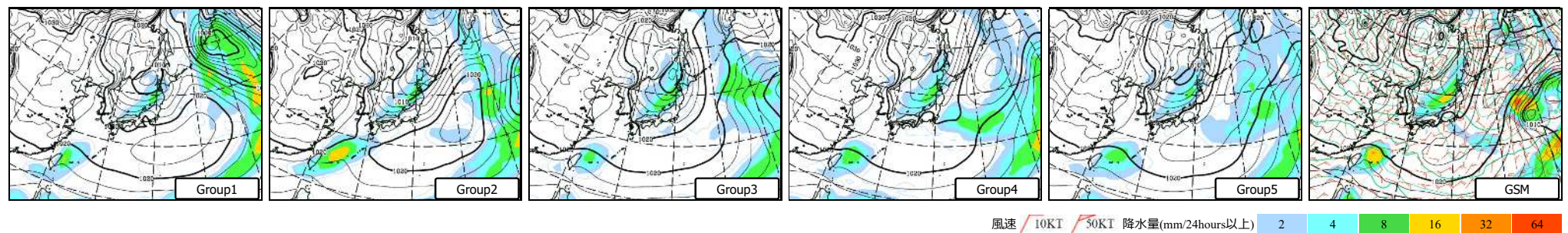


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りまたは晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月29日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、29日から30日にかけて日本海からオホーツク海に進む低気圧が強くなり東進が早まった。
- 降水確率ガイダンスの値は、29日に北日本から西日本の日本海側で大きくなった。
- 31日は、GSMは日本海に低気圧の発生を予測しているが、モデル間の差が大きい。
- スプレッドは期間終わりは大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。